

しゃばのしがらみを超えて、仏の願いに生きよう

# 仏の願い

平成21年 西雲寺だより 夏号(12号)

## 永代経のご案内

7月10日(金)～11日(土)

10日 . . . . . お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

11日 お日中(10:00～) お逮夜(2:00～) お初夜(7:00～)

法話 加賀 谷間徹誠師

11日はバスが出ますのでご利用下さい

放送会館前発(8:50)～東別院前～工大温泉前～西安居經由  
坪谷発(9:00)

常森発(9:00)～国見～鮎川～小丹生經由

おさそい合わせの上  
多数ご参詣下さい



## 親鸞聖人の生涯

## 配所(越後)の親鸞

居多ヶ浜(こたがはま)上陸

承元(じょうげん)の法難によつて吉水の教団は解散、法然上人は七十五歳の高齡にして土佐の国(高知県)へ、親鸞聖人は三十五歳で越後の国の国府(上越市高田)へ流されました。

聖人が流され上陸された居多ヶ浜は、海岸線が扇状に湾曲した美しい浜辺です。砂浜の背後が崖で、その上に立つと夏でも眼下の日本海から北風が吹きすさびます。冬は名だたる豪雪地帯で、住まいの小屋を埋めるような雪の中で、やがて関東に赴くまで聖人は家族と共に七度の冬を過ごします。

居多ヶ浜から歩いて数分のところの、竹の内草庵の遺跡には、境内の池に片葉の葦が生えていて、越後七不思議の一つといわれている。日本海の長く厳しい冬の間、吹きつける寒風に、葦の葉が片方に寄つてしまつたという。北国の苛酷な気象を語つて、流刑地の草木に似つかわしい。

ところで聖人はどのように配所に赴かれたのでしょうか。「親鸞聖人伝絵」によれば、輿(こし)と、六、七名の輿(こし)き、追立役人三騎とその従者三人が描かれています。輿は逢坂(おうさか)の関を越え、



竹之内草庵の跡

大津から舟で琵琶湖を北上して海津の浦に上陸、そこから山路を越前に入られました。越前上野ヶ原(鯖江市)には「車の道場」という聖人の遺跡があります。聖人は一時ここで輿を下りて、この地の武士、波多野右京進景之に念仏を説き、この地に初めてお念仏のご縁が結ばれたと伝えられています。

越前から陸路越中に入り、伏木などの港から海路をとられ、越後の国分寺にほど近い居多ヶ浜に上陸されました。京都を発つたのが三月十六日、上陸されたのが三月二十八日と伝えられています。

## 配所での生活

この時代流人の生活は日に米一升と塩一匁が与えられ、翌年の春には種子として糊の給付を受け、以後はそれをもとに自給自足の生活をせねばなりません。聖人は恐らく附近に荒地を求め、

晴れた日は耕やし、雨雪の日には仮屋に籠り、お聖教を開いて、師、法然上人のご恩を忘れず、勉学の生活を送られたことと思われま

す。流人として生きることの厳しさもさることながら、いなかの人がとどまらぬに

も月日を要したことでしょう。初めは、都で何か悪いことでもしう。したるくでなしと白い眼で見、近づこうとしなかつたのではないのでしょうか。当時の様子をしのぶものとして、次のよ

うな話が伝わっています。国府へ帰る途中の柿崎の里で、吹雪のため雪に足をとられてすつかり日も暮れてしまつた。と彼方に一軒の家が見える。聖人はその家に一夜の宿を請うことにした。しかしその家の女房は主人の留守を口実に、聖人の求めを拒絶した。

「我身は念仏聖であれば食べ物、夜具を望むものではない。土間の隅、軒下なりともお貸し願いたい。」

聖人の申し出にその女房は、「ならば軒下で一夜を明かすがよかろう」と邪見にいい放つて戸を閉めてしまつた。

聖人は吹雪に埋もれる軒下で念仏を称えながら一夜を明かすことになつた。夜ふけて帰宅した主人は軒下から聞こえてくる念仏の声に驚き、女房に問い正したところ、旅の念仏聖の宿を断つたという。これに對して慳貪(けんどん)な主人も別に気にする様子もなく床についた。が念仏の声が体を包むように伝わつてくると、主人は次第にその声に魅せられ、自分の邪悪な心を恥じるようになった。真夜中、主人は飛び起きて軒下の聖人を招き入れ、非礼を謝つたという。聖人の念仏にふれた夫婦は改心した。それを喜んだ聖人は「南無不可思議光如来」の九字名号を与え、

柿崎にしぶしぶ宿をとりけるに  
あるじのこころ熟柿(うれし)なりけり  
と、地名の柿崎を折り込んだ歌を詠んだといふ。

## 愚禿の名告り

聖人は越後の地に腰を据え、いなかの

びとと生活を共にするにつれ、文学をも知らず善悪をも知らずその日一日を生きたるに働くその生きざまは、都では決して接することのできないもので、その違いに愕然(がくぜん)としたのではないでしょうか。

念仏のよるこびも消え失せ、吉水での念仏の全く通じない世界を眼のあたりにしたのです。そこで聖人は初心にかえって師、法然上人の専修念仏の教えを聞思(もんし)していかれたのです。法然上人は当時智慧第一の法然房という尊敬を得た人で、学識の深いという点では、法然上人に勝る人はいないといわれた方です。けれどもご自身を語られる場合はいつも「十悪の法然房」が常で、愚痴の身という深い自覚と真理の前に立った人間の謙虚さを兼ね備えておられたのです。その自覚はまた、同時代を共に生きる人、貧しさの中に困り果てて生きていかなければならない人たち、また愚鈍下智(ぐんとんげち)の人たちを「未法濁世(まっほうじょくせ)の凡夫」と見出し出して、それらの人々と共に平等に救われなければ仏道は成就しないのだという信念のもと、

「阿弥陀如来、法蔵比丘の昔、平等の慈悲にもよおされ、あまねく一切を撰せんがため、念仏をもつてその本願となしたもう」との如來のご本願をいただかれたのです。「選択本願の念仏」を凡愚(ほんぐ)往生の道とするという法然上人のお念仏のおいわれを、いなかの入道との現実の生活の中で聞思し続けられたのです。そして、やがてご自身を「非僧非俗」の「愚禿(ぐとく)」と名告られるようになったのです。

**非僧非俗**

当時、僧は受戒をし、国の基本法である律令によつて出家であることが承認されなければなりません。聖人は流罪になつたとき僧の資格を剥奪され、藤井善信という俗名を与えられて流されたのです。その宣告を受けた聖人は敢えて国から認められる僧という有り方をきっぱりと放棄され、以後自分を僧として名告ることはないと「非僧」といわれたのです。しかし僧という有り方は放棄しても世俗を立場として生きることはできない、本願の念仏に生きるという求道心は、あらためて強くこれを保ち続ける。この覚悟を「非俗」の言葉に託して表明されたのです。

「愚禿」の禿ははげ頭という意味ではありません。外見は僧の姿であるけれども、その心と行いは世俗の人と変わらない醜い、浅ましい凡夫であるという意味です。「愚禿」の名告りは謙遜の意味もありますが、外見をつくることなく、愚かな凡夫として、本音を生きる仏道に立つことができたという名告りなのです。これは「無戒の仏道」といつてよいでしょう。念仏を弾圧した奈良の興福寺や比叡山延暦寺の聖道門仏教は、出家して戒律を守らなければなりません。肉食妻帯は許されません。しかしこれは人間の本来の在り方に背いたものであつて、肉食妻帯をし、あさましい生活をしていく大多数の人々は救われません。女も男も善人も悪人も、皆平等に救われていくのが「無戒の仏道」としての本願念仏のみ教えです。聖人はよき師、法然上人との出遇いと、越後でのいなかの入道との出遇

いを通して、いよいよ「愚禿」の自覚を深めていかれたのです。

**恵信尼との結婚**

「愚禿」の自覚の深まりと共に、聖人は妻帯をし、家庭をもつことを受け止めることができようになつていきました。そしてやがて恵信尼と出会い家庭をもつこととなつたのです。恵信尼は三善為教(みよしたため)の娘で、その一族は越後にあつてかなりの豪族であつたといひます。この三善家はもともと関白九条家につかえる役人で、頸城(くびき)の笹倉にある九条家の莊園を管理する家柄でした。

大正時代、西本願寺から、恵信尼が末娘の覚信尼に宛てたお手紙が発見されました。中世の女性の手紙が残存するのは世界でも珍しい事といわれています。そのお手紙を拝見すると、当時としては稀にみる高い教養の持主であつたことがうかがえます。文章をよくし、書も巧みで、驚くべきは日記をつけておられたことです。聖人との間に五人の子供に恵まれました。そして聖人と深い敬愛の念で結ばれ、恵信尼はひそかに夫の聖人を観音菩薩の化身と仰いでおつたと聖人の死後、末娘覚信尼に宛てた手紙のなかで書かれています。この奥ゆかしい夫婦の絆は、お念仏によつて阿弥陀のいのちを共有するものだけが賜るものでありましょう。(住職)



恵信尼公

(本願寺国府別院蔵)



## 親を見送り思うこと

4月29日朝、まるで晴天の空に吸い込まれる様にして逝った母を見送って早くも1ヶ月が過ぎ去り、少し気持ちの方も落ち着き、普段の生活に戻ってくると同時に、今までの事が時折思い出される昨今です。

山や山菜取りが大好きだった父が亡くなって、ちょうど10年目に入ったところでした。

母は若い時から病弱で色々な手術などを受け、幾度となく病院のお世話にもなり、何かと言うと頭が痛い、頭が痛いのが口癖だったのを思い出します。それが4年前の1月に脳内出血で倒れてからは、車椅子の生活になったものの、不思議と頭痛を訴えることは1度も無く、平成19年に福井病院の新田塚ハウスへ入所する事となりました。施設での生活では、毎月のお誕生会や夏にはお祭りを楽しみ、介護士のサポートもあって福井のエルパで買い物も出来る様になり、大変喜んでおりました。この様に、日々友達との触合い、レクレーション、カラオケなどを楽しみながら過ごしていましたが、今年の3月頃より徐々に食事が摂れなくなり、病院の医療チームの薬石の効なく朝5時47分、先に亡くなった父の元に旅立って行きました。

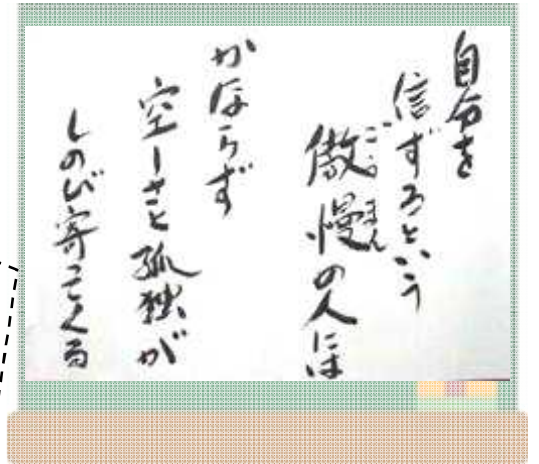
父はと言うと、大の世話好き、話好きで、旅行好き。どこへ行くにもバイクを飛ばし、とても行動的な人生であったと思います。ただ一本気で短気なところがあり、私も子供の頃にはよく叱られ、時には叩かれたりして反発を覚えた事も何度もありました。しかし、学校の父兄会には必ず父が出席してくれて、高校進学の時も私は就職を考えていましたが、担任教諭との話し合いに来て、急遽受験をする事となりました。今ではそれが私の人生の大事な岐路であり、生活の基礎であったと思い感謝をしています。その様な父だったので、生前も多くの友人、知人がいました。だからお浄土でも色々な人に囲まれて、賑やかに、母が行くのを待っていたのではないかと思います。母が行った今は、のんびりと二人で生まれ育った武周の事や、思い出話に花を咲かせているのではないのでしょうか…。

合掌

(福井市春山) 鈴木 忠夫



## 山門揭示板



私たちは底の知れない程、自己信頼の上に毎日生きています。自己を絶対化し自分を中心とした一つの世界をつくり上げていきます。そこにあるのは自己に対する執着、我執です。

私というものは、私があつて私が生きていけるのではなく、さまざまな関係を私として生きていくのです。この関係を断ち切れればそこにしのび寄ってくるのは孤独と虚しさです。それを救うのは自分に対する謙虚さです。私というものはお粗末で至らない不完全なものであり、如來のご本願を信ずることもなく、どこまでいっても自分を信じているだけや、だから孤独と虚しさを逃れることができない、「ああ、そうだった!」と自分に帰るのです。煩惱具足の凡夫に帰らしていただくのです。(住職)

## 先輩の感動をたずねて

例えば、無量というのは無量光仏の略で、「大經」さんに説かれる阿彌陀仏の別名です。別名は全部で12。私が読んだら、無量・無辺・無碍：ただの羅列です。ところが親鸞聖人は一つも省略されない上に、光と出会った感動を一つ一つ歌にしておられるんです。(無量…智慧の光明量り無し 無辺…解脱の光輪辺も無し 無碍…光雲無碍如虚空 無对…清浄光明对び無し 光炎…光炎王仏となづけたり以下省略)どれも、普段おつとめする和讃に出てきますね。きつと私たちの先祖方も大事にされてきたんでしよう。一体、どんな光でしょうか。

私は、「先人の姿を通して」その光に出あうことができるのだと思います。恥入り、喜ぶ先人、身近におられませんか？あの先人は今、光(仏様)に出会っている、これってすごい驚きです。お育ての力(光)によつて、突然の不幸でさえ受け入れておられる確かな姿に、深く納得して、胸に落ちて、私もまた生きる心棒(光)を頂くのです。(編者)

ふ ほう 無量 無辺 光

無碍 無对 光炎 王

親鸞作『正信念仏偈』より

読み方 普(あまね)く、無量(光)・無

辺(光)・無碍(光)・無对(光)・光炎(王)を放(はな)つ。

無量 量(はか)れないこと

無辺 辺(きわ)がないこと

無碍 碍(さまた)げられないこと

無对 対比できないこと

光炎王 照らす力の強さを王様にたとえたもの。



ご報告

本山差し向け  
布教がつとま  
りました

布教使(滋賀)  
田中美知男師



同朋章をかけて御聴聞



じいちゃん、  
今どこ読んでるの？

6月14日 西雲寺

16日 安田地区  
(未定清一氏宅)  
17日 本堂地区  
(横山忍氏宅)



四ツ目のお座敷にて



武周の葉寿司



お焼香

布教使  
(大野)  
関哲樹師



前任職(釈一彦)十七回忌 厳修

5月16日 御日中



お参り有難うございます



篤志によるお華立て

発行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**  
住職 護城一寿  
筆頭総代 鈴木春夫  
編集責任者 護城一哉  
〒910-3523 福井市武周町5-2  
電話 0776-97-2138  
メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp  
ホームページ http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に！  
お手元に2部届いた時には、ぜひ  
ご活用下さい。

みなさんの声 大募集！  
原稿や作品はもちろん、ご意見、  
ご感想など、どしどしお寄せ下さい。  
郵送でもメールでも構いません。お  
待ちしております。